

ガムラン奏者

インドネシアのスミヤントさん

外国に行くことが夢でした

インドネシア・ジャワ島からやってきたガムラン奏者「スミヤント」さん

Q:日本の印象は？

A:外国に行くことは大学時代からの夢でした。母はとても寂しがりましたが、私は日本に行きたいと思いました。最初は言葉ができなかったので大変でしたが、川崎市国際交流協会の日本語講座で勉強しました。インドネシアにはこういう所はないのですが、とてもよいと思います。来日して想像していた日本とは違っていたので驚きました。もっと高層ビルに囲まれ、車がブンブン走る恐いところかと…(笑)。

ところが、乗り物は安全で便利だし、治安も良くとても住みやすく感じています。食事も最初は物足りなく感じました。インドネシア料理はスパイシーですから…。でも、今は和食も大好きです。特に刺身とか、シンプルな料理がおいしいですね。ただ、日本は寒いですね。特に冬は乾燥に悩まされます。

Q:インドネシアと日本の子育ての違いは？

A:長男の弦輝(げんき)が生まれて、子育ての違いはいろいろ感じました。私自身は10人兄弟で、首都ジャカルタから離れたのんびりしたところ



▲スミヤントさんと妻の亜矢子さん

で育ちました。近所の人達ともつきあいが密接ですから…子育ても助けてくれたり、教えてくれる

わけです。でも、日本にはマニュアル的な本がたくさんあり、妻もその通りにしなくてはと思うようです。例えば、母乳は何時間おきに飲ませるとか…言い争いになったりもしました(笑)。暖かい気候のせいか、インドネシアではオムツを使う習慣がありませんのでオムツかぶれにもならないんです。

先日、子どもと一緒に始めて里帰りしましたが、従兄弟達もたくさんいて、息子もとても楽しかったようです。

ガムランとは？

「ガムラン」とはインドネシア各地の様々な打楽器合奏の総称で、マレー語(インドネシア語)の「ガムル」(たたく)が語源となっています。

地域によって特色があり、その中でもジャワ島中部、ジャワ島西部(スダ)、バリ島のものなどがよく知られています。ジャワのガムラン演奏は、青銅楽器、弦楽器、太鼓を用い、さらに歌、かけ声も入ります。結婚式などのお祝いごとやお祭りの時のほか、影絵芝居、舞踊の伴奏音楽としても演奏されています。

Q:お仕事について

A:インドネシアでは、ガムラン奏者としてバリ島でも仕事をしました。しかし、もっと勉強が必要と感じ、大学に入りました。もともと父がガムラン奏者



だったので、強くすすめられ高校で勉強しましたが、自分自身やりたいと思ったのは、高校卒業後、他の仕事をしてからです。しかし、日本ではガムランを演奏する機会も少なく、仕事としては成り立ちにくいですね。今は、新宿御苑の公園協会で働いています。知人の紹介でアルバイトから始めました。菊課に所属し、日本の伝統ともいえる菊作りをしています。インドネシアでは静物を鑑賞し「愛でる」という文化がありません。専門用語も難しく、経験もないことなので大変ですが、楽しいですよ。秋には菊花壇展があるので、とても忙しいですが、大切に育てた菊をたくさんの人にみてもらえ、やりがいを感じます。ぜひ、皆さんも見に来てください。

ありがとうございました。スミヤントさんは慣れない外国暮らしを前向きにとらえ、受け入れて生活しているところがとてもステキでした。また、日本とインドネシア両国の伝統文化を極める感性と努力に脱帽しました。もちろんイヤな思いもなさったでしょうし、大変なことも多いと思いますが、『楽しいですよ』とおっしゃる姿勢を私たちも見習いたいですね。

(取材・文:編集ボランティア 相沢明子、青柳尚子)

